

血液培養より *Herbaspirillum* 属が検出された 2 症例

©早乙女 綾子¹⁾、坂本 樹生¹⁾、中村 惇人¹⁾、涌井 可菜子¹⁾、伊豆野 良太¹⁾、叶内 和範¹⁾、森兼 啓太¹⁾
山形大学医学部附属病院¹⁾

【はじめに】*Herbaspirillum* 属は主に土壌や植物などの環境中に生息するブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌であり、人体に影響を及ぼすことは極めて稀である。今回我々は免疫力が低下した小児において *Herbaspirillum* 属による菌血症が疑われる症例を同時期に 2 例経験したので、関連性を含めて報告する。

【症例 1】ネフローゼ症候群にて入院加療中に発熱が認められた 2 歳男児。血液培養を 1 セット採取後 8 時間経過で好気ボトルが陽性を示した。グラム染色にてグラム陰性に染まる桿菌を認めたため、ヒツジ血液寒天培地・クロモアガーオリエンタシオン/ESBL 分画培地を用いて培養を開始した。発育したコロニーを用いて質量分析装置 MALDI Biotyper にて同定を行ったところ、*Herbaspirillum huttiens* (Score Value 2.28 Consistency Category Low) との結果となり、臨床へは *Herbaspirillum* species と報告した。

【症例 2】急性骨髄性白血病にて入院、化学療法中に発熱が認められた 2 歳男児 (症例 1 の約 1 週間後)。小児ボトルを用いて血液培養を採取後 35 時間経過で陽性となった。

症例 1 と類似するグラム染色像が観察され、前述の方法と同様に培養を実施した。その同定結果は *Herbaspirillum aquaticum* (Score Value 2.29 Consistency Category Low) となり、症例 1 と同じく *Herbaspirillum* species と報告した。

【16SrRNA 遺伝子検査】同時期に同病棟の患児より *Herbaspirillum* 属という稀な菌種を分離したため、その関連性について調査した結果、16SrRNA 遺伝子解析にて最終的に症例 1 は *Herbaspirillum huttiens*、症例 2 は *Herbaspirillum aquaticum* と同定された。

【まとめ】*Herbaspirillum* 属による菌血症は国内外においても報告例が少なく、加えて同時期に 2 症例を経験したため、水平伝播を疑った。しかし、詳細な解析にて別の菌種であることが明らかになったため、水平伝播は否定的であった。質量分析装置では詳細な同定ができない菌種が存在することを改めて念頭に置き、希少な菌種に遭遇した場合は複数の方法を試行することが重要であると再認識した事例であった。

連絡先 023-628-5682